

公立大学法人 大分県立看護科学大学
平成29事業年度の業務実績に関する
全体評価結果

平成30年8月

大分県地方独立行政法人評価委員会

評価結果と判断理由

評価結果

全体として年度計画を上回る進捗で実施している。

判断理由

- ① 大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」についてはS評価（特筆すべき進行状況）であり、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」、「Ⅳ自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「Ⅴその他業務運営に関する重要目標」についてはいずれの項目もA評価（計画どおり進んでいる）であること。
- ② 「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」に関して、平成30年度以降もスリム化し継続する「看護学生による予防的家庭訪問実習を通じた地域のまちづくり事業」の高い実績はもとより、大学院における保健師教育の障がい者等の実習対象者拡大、在学中の学習成果の表彰、優秀な学生確保のための入試改革対策、国試対策支援の徹底、大学と実習機関との意見交換等数々の取組が、学生への支援のみならず、学生が社会との関係性の中で、学びを通じて地域に貢献し、やりがいを感じられる環境づくりを行っていること。

<委員会からのコメント>

いずれの項目も計画どおりに進んでおり、特に「教育研究等の質の向上」に関する目標は年度計画を上回って進捗している。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等の 質の向上	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
II 業務運営の改 善及び効率化	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
III 財務内容の改 善	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
IV 自己点検・評 価及び情報提供	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
V その他業務運 営	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

公立大学法人 大分県立看護科学大学
平成29事業年度の業務実績に関する評価結果
項目別評価結果
(大項目評価)

平成30年8月

大分県地方独立行政法人評価委員会

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、47項目（ウエイト考慮後58項目）の全てがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であること。
- ②予防的家庭訪問実習について、参加学生数340人、延べ訪問回数511回の実績をあげたこと。平成29年度でCOC事業としては終了するため、次年度の実習継続に向けてスリム化を図り体制を整備したこと。
- ③大学院の保健師教育において、地域生活支援実習の対象者を障がい者、特定保健指導対象者に拡大し、支援が必要な生活者への理解を深めたこと。また、実習報告会において、実習生・大学・市町村・保健所が成果と情報共有を行えたこと。
- ④看護学実習充実のため、約100の全実習施設との合同会議を開催にて、講演会、分科会を実施し、その成果として学生の主体性・自立性を引き出すため、実習ガイドブックの内容を刷新したこと。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- 教育の内容及び到達目標
- ・2年次後期時点で身に付けるべき知識問題にて進級試験を実施。進級試験で優秀成績の学生を表彰する規定を整備し、在学中に学習成果を認める教育環境を整備した。
 - ・予防的家庭訪問実習について、参加学生数340人、延べ訪問回数511回の実績がある。学生アンケートにより、学生自身の実習評価を行い、実習の実施要綱の変更が望まれる点を洗いだし、学内外の承認を得た。平成29年度でCOC事業としては終了するため、まとめを作成するとともに、次年度の実習継続に向けてスリム化を図り体制を整備した。
 - ・理事・入試改革タスクグループ（TG）を立ち上げ、2020年の大学入試改革の準備と優秀な学生確保のための入学試験方法を検討し、報告書としてまとめた。
 - ・大学院における保健師教育は、地域生活支援実習（継続支援）の対象者を母子以外にも、障がい者、特定保健指導対象者に拡大し、より多様な生活者への理解が深まった。実習報告会を開催し、実習生・大学・実習受入れ側（市町村・保健所等）が成果と情報を共有した。
 - ・看護学実習充実のために、約100の全実習施設を招いて合同会議を開催し、講演会その他、分科会を実施した。学生の主体性・自立性を引き出すことを主眼に、平成28年度の実習指導指針作成に加え、29年は実習ガイドブックの内容を刷新した。また、平成28年度から開始した実習施設での実習指導講習会を4回シリーズで実施し、看護師・教員26名が修了証を受領した。
- 教育の実施体制
- ・実習施設との連携を強化する目的で、実習施設合同説明会を開催し、実習施設の代表者約100名が参加し特別講演、意見交換会、病院や老健施設ごとの交流会を行い、実習施設間及び大学間で情報交換や改善点等の把握を行った。
 - ・学生への地域貢献の意識づけのため、地域密着の実習施設を1か所拡大した。
- 学生への支援
- ・年間の国試模試計画の早期立案及び個別・小人数指導体制の整備により、学習への動

機付けを高め、看護師、保健師、助産師共に100%の合格率となった。

○研究

- 看護研究交流センター新設の産学官連携推進チームを中心に、看護とモノづくりの連携フォーラム、ワークショップを開催した。また、県内企業等との共同研究を実施し、成果として開発に携わる椅子が、グッドデザイン賞を受賞した。
- 予防的家庭訪問実習について日本公衆衛生学会総会で一般演題発表を行った。また、日本地域看護学会学術集会で講演を行った。実習に関する英文論文2編を学術誌に投稿した。

○社会貢献

- 予防的家庭訪問実習で把握した地域課題を行政や自治会にフィードバックした。
- 「めじろん元気アップ体操」の普及活動を通じて地域の介護予防に貢献した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
教育	27 (9)			14 (1)	13 (8)
研究	8 (2)			6 (1)	2 (1)
社会貢献	12 (0)			8	4
合 計	47 (11)			28 (2)	19 (9)
ウエイト考慮 後の合計	58			30	28

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、47項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価(計画どおり進んでいる)となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

- 学部及び大学院における教育研究等の質向上のための組織的体制が構築され、PDCAサイクルが機能し、改善努力がなされ、確実に成果を上げている。その成果は、日本の看護教育において先駆的役割を果たしていることから特筆すべき進行状況と評価できる。
- 学長(理事長)の的確なリーダーシップのもと、全学的な教育研究および社会貢献の取り組みは極めて優れた成果を持続的に創出し続けており高く評価できる。
- 保健師・助産師・看護師国家試験のすべてが合格率100%を達成できたことは大いに評価できる。
- 予防的家庭訪問実習並びにそれに関する演題発表、講演、英文論文の投稿は素晴らしい取り組みである。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、18項目（ウエイト考慮後20項目）のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②学長のリーダーシップのもと、学生の経済的負担軽減のため、授業料減免制度の拡充を図り、国立大学と同等の割合での制度を公立大として初めて制度化したこと。
- ③委員会組織の見直しを行い、各委員会の位置づけ、名称、ミッション、分掌事項を改定し、新たな委員会を設置したこと。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- 運営体制の強化
- ・理事長と学内理事で構成する役員会を毎週開催し、理事会・経営審議会及び教育研究審議会などにおいて戦略を立てるとともに大学運営を効果的に進めた。
 - ・学長のリーダーシップのもと、学生の経済的負担軽減のため、授業料減免制度の拡充について県と協議し、授業料減免率が4%から10%と、国立大学と同等の割合での制度を公立大として初めて制度化した。
 - ・開学以来、踏襲していた委員会等組織の見直しを行い、各委員会の位置づけ、名称、ミッション、分掌事項を改定し、新たな委員会を設置した。
- 開かれた大学運営
- ・保健師、助産師及びNP（診療看護師）として活動している卒業生・修了生の集いやフォローアップ研修を開催し、情報交換や意見収集を行った。
 - ・webに設けた意見箱により、学生等の意見を広く収集し、運営に反映した。
- 人事の適正化
- ・教員昇任に関する選考基準、大学院の指導教員に関するガイドライン、教員評価基本方針等を通じて教員の修士・博士取得を促し、3名が修士号を取得して助教となった。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
運営体制	9(2)			6(1)	3(1)
人事の適正化	9			8	1
合計	18(2)			14(1)	4(1)
ウエイト考慮 後の合計	20			15	5

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、18項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様

の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

- 地域社会に支えられた大学運営に必要な改善目標をみずからの確に打ち立て、効率化へ向けて最善の努力をしていると評価できる。

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、20項目（ウエイト考慮後21項目）のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②外部資金情報を積極的に収集・周知に努めた結果、29年度は約6,000万円の外部資金を獲得したこと。
- ③科研費申請講習会の開催、申請時におけるピアレビュー制度導入による採択経験の少ない教員の支援を行っていること。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- 自己収入及び外部資金の獲得
- 外部資金情報を積極的に収集し、全教職員及び必要に応じて大学院生にメール通知し、情報共有を行った。
 - 外部資金を5,500万円獲得できた。
 - 科研費申請講習会の開催、申請時におけるピアレビュー制度導入による採択経験の少ない教員の支援により、新規申請39件、新規採択8件、継続採択18件で継続研究以外は100%の申請率であった。
 - 教育研究審議会のペーパーレス化を行った。
 - 学内Webでの公用車の事前予約を徹底のうえ、活用を促進した。
- 資産の適正管理及び有効活用
- エレベーター、浄化槽、消防設備、電気機械設備の定期点検を実施し、浄化槽ポンプ交換、消化器交換を計画的に実施した。
 - 体育館やテニスコート等の地域住民に積極的に貸し出し、29年度実績は、体育館36件、テニスコート169件、グラウンド90件となり、有効活用が図られた。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
自己収入・外部資金の獲得	6 (1)			4 (1)	2
経費の効率化	6			5	1
資産の適正管理・有効活用	8			6	2
合計	20 (1)			15 (1)	5
ウエイト考慮後の合計	21			16	5

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、20項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A

評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

- 29年度外部資金獲得が5,500万円と前年度に比べ減少する結果となったが、科研費採択率向上のためピアレビュー制度を導入し申請率100%を達成しているの
で、来年度以降の外部資金獲得に期待したい。
- 外部資金獲得の中核とも言える科学研究補助金申請への全学的努力が優れており、
科研費採択率向上のためピアレビュー制度を導入し申請率100%を達成したことは
布石として高く評価できる。

IV 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、10項目（ウエイト考慮後11項目）のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②FDワーキンググループを立ち上げ、FDに関する情報提供を行い、平成30年度の委員会発足に繋がったこと。
- ③2年次生と4年次生に対して、ディプロマポリシーの評価項目を従来よりも増やし到達の分析ができるようにしたこと。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- 自己点検及び自己評価の充実
- ・FDワーキンググループを立ち上げ、FDに関する情報提供をおこなった。これが平成30年度には委員会として発足となった。
 - ・2年次生と4年次生に対して、ディプロマポリシーの評価項目を従来よりも増やし到達の分析ができるようにした。またカリキュラムポリシーによる学習成果も新たな項目で調査し、特長や改善につなげた。
 - ・自己点検・評価委員会が中心となって、学内規程の見直し作業を進め、全教職員から意見募集し、委員会編成等すぐに対応できるものは平成30年度開始にあたって変更した。
 - ・学内役員会で、委員会やワーキンググループの改変、削減が必要と提案し、教育研究審議会での討議の結果、委員会を2つ新設しワーキンググループを8個削減した。
- 情報公開や情報発信の推進
- ・助教以上の教員が大学HPで年間12件の研究成果を掲載した。
 - ・大学HPのfacebook公式ページ等で、大学の情報を解かりやすく、迅速に掲載した。
 - ・県の広報番組OBS「オオイタコレクション」にて大学の情報を積極的に発信した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
自己点検・ 自己評価	4			1	3
情報公開・ 情報発信	6 (1)			5	1 (1)
合 計	10 (1)			6	4 (1)
ウエイト考慮 後の合計	11			6	5

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、10項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A

評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

- 「Facebook公式ページ等で大学の情報を解りやすく迅速に掲載した。」については、いろいろな障壁があるだろうが、スマートフォン世代の学生には、SNSでの発信がより効果的だと考える。
- 時代の要請や変容に応じ、自己点検・評価及び情報を適切に提供する努力を重ねていることは高く評価できる。

V その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、16項目（ウエイト考慮後16項目）のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）であること。
- ②アクティブラーニングの先進事例を取り入れ、学内のニーズ調査と併せて、効果的なアクティブラーニングの運用方法を検討したうえで、予約システムや必要物品の整備を含めアクティブラーニングの場所を確保したこと。
- ③教室や会議室の利用状況点検から活用方法を検討した結果、無線LAN整備し、英語授業でのCALLを各学生のスマートフォンで行い、CALL専用室を不要とし、有効活用に繋がったこと。
- ④教職員向けの人権研修で、初めて「LGBT」をテーマとしたこと。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- 施設・設備の整備・活用
- ・アクティブラーニングの先駆的大学を視察し、環境整備のための情報収集、学生のアクティブラーニングの実態調査、ニーズ調査を行い、広いスペースでアクティブラーニングができる場所を確保し、予約システムを含め設備整備を行った。
 - ・校内の教室や会議室の利用状況を点検し、有効活用できる場の検討を行った。学内での無線LAN整備の結果、英語の授業で用いているCALLを学生各自のスマートフォンでできるようになり、CALL専用部屋を準備する必要が無くなり、教室の有効活用につながった。
- 大学の安全管理
- ・全学防災訓練として、シェイクアウト訓練（地震防災訓練）、通報・消火・避難訓練、安否確認メール一斉送受信テスト、AED訓練を行った。
- 人権尊重の推進
- ・教職員を対象に、LGBTをテーマに人権研修会を開催した。
 - ・1年次生を対象にデートDV防止セミナー、人権同和問題研修を開催した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
施設・設備の 整備・活用	5			2	3
安全管理	8			6	2
人権尊重推進	3			3	
合計	16			11	5
ウエイト考慮 後の合計	16			11	5

(注) 1 () は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、16項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

- すでに看護科学領域においてNP人材育成拠点づくりをはじめ、本学はブランド構築とも言えるアイデンティティ創出を的確に進めており、今後の誠実な業務運営と発展が期待される。